

名取市立関上小中学校



県内唯一の義務教育学校の名取市立関上小中学校を訪問しました。関上小中学校の八森校長先生は、震災当時、関上中学校の教務主任でした。その後、名取市の教育委員会に勤務なされ、関上中学校の教頭を経て昨年度開校の関上小中学校の校長先生になられました。震災時には、生徒・教職員・地元の人々を校舎の2・3階に避難させて多くの方々を守りました。校長先生からは、当時のこととともにその後の復興についてと生徒・児童の命を守るための関上小中学校の防災教育について話していただきました。

最後に震災当時の記録を残している部屋を案内していただきました。そこにある津波に足の部分が浸かったピアノが残されており、教職大学院2年生の高見君が演奏しました。ペダルがよく動かなく、調律もしていないピアノでしたが感動的な演奏でした。校長先生は、震災後にこのピアノで曲を聴くのは初めてだと喜んでいました。

山元町中浜小学校跡地



中浜小学校は、海岸から約3百メートルにある学校でした。今回の研修では、当時の校長先生の井上剛先生にお話を聞きました。東日本大震災当時の在籍児童は59名、職員数は14名の学校です。3月11日2時46分東日本大震災の大きな揺れに見舞われ、テレビの情報では、大津波警報が出ており、10分後の津波到来予測を伝えていました。2次避難所になっている中学校までは、20分以上かかるため屋上への避難をおこないました。津波は4波まで襲ってきました。津波の高さは2階の天井まで、上右の写真の青い印のところまで津波がきました。校舎の周りにはたくさんの住居があったのですが、みんな流されてしまいました。児童と教職員地元の方々は、屋上の倉庫で一夜を過ごし、次の日、自衛隊のヘリコプターで避難する事ができました。

丸森町いなか道の駅やしまや



「いなか道の駅やしまや」の八島哲郎さんからは、阿武隈川の洪水の話、原発事故による風評被害についてのお話を伺いました。たけのこ栽培では竹林の除染や整備をボランティアの方々をお願いしており、それが縁でその後もお付き合いが続いているとのことでした。たけのこは、放射性物質の全量検査をして出荷するようになったとのこと。名産の柿には、原発事故の影響は無かったのですが、放射線を心配して大丈夫かという問い合わせが続き、売り上げが大きく落ちたそうです。震災前から、たけのこや柿などをさまざまな工夫をしながら販売してきたやしまやさんです。私たちがわからない震災被害からの復興の大変さをユーモアを交えてお話しいただきました。最後に、竹林で竹についての話しと取ってすぐのたけのこを生で食べていただきました。

丸森町百目木ガーデン



百目木ガーデンでは、震災の2年前に脱サラして東京から丸森町耕野に移住してクリスマスローズの生産者をしている義高さんのお話を聞きました。東日本大震災後におきた福島原子力発電所の事故の報道から避難を決意し準備をする義高さんに、福島県の公立病院で看護師をしている奥さんには、避難するなら一人で行ってと言われ、妻と一緒に丸森町に残ることを決意し現在に至る。義高さんは、女性の強さを感じたとしみじみと話していました。奥さんどうして旦那さんと避難しなかったのですかときいたところ、「病院には沿岸部から避難してくる人たちがたくさんきている。仲間の看護師や先生方は、待合室に泊まり込みで治療に当たっている。私も1年で仲間ができたのです。」と笑顔で話していました。

研修を終えて

今回の研修は、名取市閑上から山元町、丸森町までの広い地域を訪れました。津波による被害を受けた学校の校長先生、東日本大震災福島原子力発電所事故の被害とその後の風評被害を受けた商店の経営者、放射線被害から避難を真剣に考えた方の話を聞くことができました。震災時のことだけでなく、震災から立ち直るために日々の仕事に一生懸命取り組む人間の強さを学ぶことができた研修でした。